

【下妻会長】

最初に、2010年度事業計画をはじめ、すべての案件が無事、総会で承認されたことをご報告申し上げます。

4月の記者会見で発表した通り、本日の総会で二人の副会長の就任をご承認いただきました。一人は、水越副会長の後任となる川崎重工業の大橋会長で、もう一人はレンゴーの大坪社長である。

大橋副会長には、引き続き神戸経済界の代表としての役割と、地球環境・エネルギー委員会をご所管いただく。大坪副会長には国際委員会をご所管いただく。また、お二人にはそれぞれ地域サポーターとして、兵庫県と福井県をご担当いただく。今後とも積極的にご活躍いただけるものと期待している。

新任のお二人の副会長を加え、14名の副会長や各委員長をはじめ会員の皆様のご協力を得ながら、関西経済の発展のため、引き続き全力で取り組んでまいりたい。

昨年度は、政権交代という大きな動きがあったが、関西の総合経済団体として、それなりのプレゼンスを示せたのではないかと考えている。活動の指針となっている「関西ビジョン2020」に基づいて様々な取り組みを行い、水・インフラビジネスの国際展開を中心に、「環境先進地域・関西」の実現に向けた取り組みや関西3空港懇談会については、それなりの成果があった。大阪駅北地区先行開発区域は今年の3月に着工されたし、組込みシステム産業振興機構は6月に設立されるが、当初企業中心で動き出したものが、地域に根ざした活動となった。また、30周年を迎えた関経連アセアン経営研修の新たな展開など、これまでの取り組みの成果が徐々に花開きつつある。

今年は事業計画にある通り、引き続き①大胆な政策提言と政策実現活動の更なる強化、並びに②「関西ビジョン2020」の具現化に力を入れる。

必要に応じて政策提言を取りまとめ、関西の経済活性化につながる制度整備や企業が活動しやすい環境整備に力を入れたい。そのために、「新成長戦略」にもあったPFI制度の活用促進に向けた研究会の設置や、関空、阪神港湾といった関西版ポートオーソリティ構想といった広域交通・物流インフラ整備の将来像研究など、新たな事業にも取り組みたい。

政府の「新成長戦略」の基本方針には、「環境」、「アジア」など関経連が提唱してきた関西が得意とする分野が多く含まれ、関西にとっては順風である。例えば、基本方針には「インフラ整

備事業のアジア展開」が盛り込まれているが、その実現には関西に集積する民間だけでなく、行政、自治体の技術・ノウハウを結びつける官民連携が重要となる。今年度は「チーム関西」として、水ビジネスだけでなく、PPP、環境インフラ整備の貢献や太陽光パネルはじめ経産省からも指定を受けた「けいはんなエコシティ」の実現など、「環境先進地域・関西」の目玉ができればと思っている。

元氣な関西が、日本の成長を牽引できるよう、自律的發展に向け頑張りたい。

【大橋副会長】

今回水越副会長が退任し、後任として副会長を拝命した。地球環境・エネルギー委員会を担当させていただく。

地球温暖化問題はグローバル規模であり、我が国の経済、雇用に影響を及ぼす大きな課題。低炭素社会と経済の両立の基本原則にたつて国民的な理解と合意の下に、経済団体として実現可能、かつタイムリーな政府提言をやっていきたい。

今後、藤委員長、委員の方々とも相談し、これまで、重工業の経営者として環境負荷低減、省エネ技術に携わってきた経験を活かせればと思っている。

関西は多様性がある地域であり、多様性を生かしながら一体となることが重要。その中で兵庫・神戸代表として何を伝え、何ができるかを考えていきたい。

【大坪副会長】

現在、関西生産性本部の会長も務めているが、このたび関経連の副会長をお引き受けすることとなった。関経連では、これまで統括委員会や国際委員会の委員長として多くの経験をさせていただいてきた。

下妻会長が関経連会長に就任される際には、私も声援を送った一人であるが、近年の関経連は非常に風通しの良い組織になった。さらにこのムードを持続させ関西経済のより一層の発展につなげたい。

常々、関西は環境を前面に出した活動を行うべきと提案させていただいてきたが、その活動も実体を伴ったものになりつつある。

また、関西の特性を生かした地方分権のあり方についてもより真剣に考える時期にきている。国家の最重要事項は安全保障であるが、経済に関しては、地域が主権をもって発展させるべきで

ある。

環境については、空気と水だけが取り上げられるが、それに土(Soil)を加えたSAW (Soil, Air, Water)プロジェクトを提案したい。SAWIについてEnvironmental Foot Printのよ
うな基準づくりも必要かと考える。

以 上